令和６年度　米子市の認知症施策を考える会（オレンジの会）議事録

日　時：令和６年８月９日（金）１５時００分～
場　所：米子市役所第２庁舎　２階第２会議室
出席者：委員（１０名）
髙田照男（会長）、廣田裕（副会長）、田住英之、川島雅弘、木村留美子、吉野靖子、吉田英司、米村功、森江佳奈、大濱伸也
オブザーバー（２名）
中本道子、織奥奈々
事務局（４名）
足立長寿社会課長、遠藤課長補佐、松田主任、長門主任
傍聴者：１名

１　開会・会議の成立（午後３時００分）
＜事務局＞
・開会
・全１５名委員のうち、１０名の委員の出席を確認、過半数の委員の出席により会議が成立していることを報告。

２　長寿社会課長あいさつ【省略】

３　議題
（１）会長、副会長の選任について
髙田会長、廣田副会長が選出

（２）認知症バリアフリー事業について（案）
（米子市からの説明）
認知症バリアフリー事業の案について、委員の皆様からご意見をいただきたい。
（髙田会長）
チームオレンジについてイメージが沸かないが、わだや小路ではどのような活動をされているか、吉野委員に伺いたい。
（吉野委員）
例えば１人の認知症の人がおられて、その地域では民生委員や自治会長が少しお世話しているということがある。そのような支援をチームでやろうという活動。チームのメンバーのそれぞれができること日常的にやっている。わだや小路でやってるのは、今 90 代前後の人たちが多いが、一人暮らしの女性が多く集まってきて、県がやっている運動をしたり、音楽をしたりしている。チームオレンジとして、みんなが集まってくれば相談できる環境

ができる。1年に1回は鳥大の先生と学生に来てもらって健康保険室をしている。

また、市の作成しているエンディングノートをみんなで話し合って書いてみることもした。市内でいろいろなチームができて、米子市が統括してくれたら、連携がとれるのではないか思う。

（大濱委員）

認知症サポート店認証事業について、従業員の1名以上が認知症サポーター養成講座を受講していることが要件とされているが、従業員の全員が受けていることが理想的で、少なくとも全職員の何パーセント以上とかの方が良いと感じる。また、ステッカーが目に入るようにしなければ、気づかない人もいる。家族と一緒に行動する方も多いと思うので、ステッカーが目立つように工夫が必要。

（吉野委員）

去年までの認知症サポーター養成講座の中で、銀行や郵便局などいろいろなところに講師として行っているが、各事業者がバラバラだと感じる。サポーターは多いため、米子市が掘り起こししてもらえたら良いと感じる。

（事務局）

これまで認知症サポーター養成講座を受講した事業所等については、お声がけしようと考えている。また、認知症サポーター養成講座の受講者数の要件については他の委員はどのように考えるか。

（髙田会長）

多ければ多いほど良いと思う。

（廣田副会長）

認知症サポーター養成講座の受講時間はどれくらいか。頻繁にやっているのか。

（事務局）

１回あたり９０分で行っている。昨年度までは、事業所等からの希望に応じて講師を派遣していたが、今年度からは、従前のやり方に加え、米子市主催で個人単位でも受講できるようになっている。

（髙田会長）

受講者については、２回目の人もカウントされているのか。

（事務局）

延べ人数でカウントしてるため、２回目の受講された方も含まれている。

（木村委員）

認知症サポート店認証事業の要件の関係機関へのつなぎ支援について、事業所がつなぎ先を分かりやすいようにする必要がある。認証ステッカーについては、当事者や事業者だけでなく市民が分かりやすいように周知が必要であると考える。

（川島委員）

事業者のPRがメリットとしてあがっているが、事業者が認証ステッカーを貼りたくなるようなものにすることが重要だと考える。これまで認知症に関心がなかったところにも興

味を持ってもらえるようにする必要がある。
（吉野委員）
　キャラバンメイトが作成しているものは使わないか。
（事務局）
　米子市独自で作成することを考えている。また、木村委員の意見にあった、つなぎ先については、米子市から相談先一覧として提供しようと考えている。
（髙田会長）
　つなぐということはデリケートな部分があると思う。前もって認証店に対して説明が必要だと感じる。困ったことがあれば、まずはご家族の情報について聞いていくようになるのではないか。また、認知症サポーター養成講座の中で、認証店やチームオレンジのような活躍の場があるということを周知しても良いのではないか。
（吉野委員）
　認知症サポーター養成講座は、まず認知症を理解するというスタンスでやっている。最近では、受講者の中で何かできることをやりたいと言う人が増えてきている。認知症サポーターステップアップ講座では、一緒に何か行動してみましょうという提案をしている。
（大濱委員）
　受講者に無理に行動を求めるものではないが、何かやりたい人がいれば、そのような方を募って活動につなげていけばいいと考える。
（事務局）
　今年度から個人でも受けれる認知症サポーター養成講座を実施し、その後の認知症サポーターステップアップ講座を案内させていただいたが、受講者のうち約半数の方がステップアップ講座も受講したいとの希望があった。行動に移したいと考える人はある程度いるのではないかと考えている。
（廣田副会長）
　自治会の働きはどうなっているのか。
（事務局）
　チームオレンジの取り組みについては、地域の自治会も関係が深いと考えており、熱心に取り組んでいる地区等についてはアプローチしていきたいと考えている。
（廣田副会長）
　包括が主に地域の認知症の人を支援していると思うが、地域でもサポートする体制ができれば、支援体制の底上げにつながるのではないか。
（木村委員）
　チームオレンジが広がっていき、地域の力がついていくことで、関係機関を頼るのではなく、地域の中で解決できることが増えていくのではないか。

（３）認知症の施策に関する評価体制について
　（米子市からの説明）

認知症の施策に関する評価体制について、委員の皆様からご意見をいただきたい。

（髙田会長）

今回から米村さんにも委員になっていただいているため、こんなまちであれば暮らしやすいなど、何かヒントがあればいただきたい。

（米村委員）

一人一人思っていることが違うから、その違いを埋めていくことができれば良いと思う。

（髙田会長）

いろいろな方に伺うと、本人を支援する人がもっといればいいと思う人もいれば、自分たちで何とかしたいと思う人もいて、多様な意見がある。資料４の３ページ目の本人ミーティングのような場でどのように意見を積み上げて、どのように施策に活かしていくかが重要になると思った。

（廣田副会長）

評価について、事業が実を結んでいるのかが重要。認知症サポート店認証事業であれば、店内でトラブルになった件数や認知症サポーターが生活の安全や医療につなげた件数がどれくらいあったかなどが指標になるのではないか。認知症サポート店を作るのであれば、その店舗がどれくらいの事例を解決したかなどを評価するべきではないか。

（事務局）

認知症サポーター等から解決につながった事例については、集計の難しさがあるが検討していきたい。

（髙田会長）

オレンジの会の強化が謳われているが、会議の開催は年１回でいいのか。委員の思いを活かすためには、何度か開催し合意を得ながらやっていくべきではないか。

（事務局）

目標値は年１回としているが、事務局としてもその１回をやればいいと考えているわけではない。今年度も冬頃にもう１回開催できればと考えている。

（吉野委員）

米子市が認知症の本人交流会を開催し、全部の包括に認知症の人との参加の依頼をしたが、参加して自分の意見を言うことができる人がいないようであった。せっかく米子市としてやるのであれば、包括も積極的に認知症の人を誘って、参加人数を集めるべきだと思った。米子市は今年度いろいろな動きをしていて本当にすごいと思うので、それをみんなで評価していくことが大切だと思う。ごみ出しの簡易版ガイドについても、実際に米子市が認知症の本人の意見を聞いて、いい物ができている。そういった実績もあるので、そのような取り組みを今後も広げていくと良いと考える。

小学校への絵本教室などの普及啓発も、中学校や高校までどうつなげていくかが課題であり、中学生や高校生の親たちの世代にも認知症の理解を広めていくことが重要と考えている。

（事務局）
本人家族の参画のため、５月に米子市主催で本人交流会を行っており、本人からの意見を市の施策に反映させる機会になっている。このような取り組みも継続していきたいと考えている。
（米村委員）
自分が生活して一番困っていることは、ごみ出しなどの日常のこと。分別なども単純化されていない。認知症の人にも基本的なことが分かるように工夫することが必要じゃないか。
（髙田会長）
単純化して分かりやすくすることも大切だが、チームオレンジのような地域の支援も大切になってくるのではないか。認知症に限った話ではないが、それぞれの立場の人にどう地域として関われるかが大切なポイントだと感じた。

（４）その他
（事務局）
９月が認知症月間であり、米子市でも啓発活動を行う予定としているので、そのような啓発の取り組みにも委員の皆様にもご協力いただきたい。
（髙田会長）
啓発に関連するが、数日前にアルツハイマー病抗体薬の２例目が認可された。県についても、新しい医療をどう展開し、どのような体制をつくっていくのかが大きなポイントになっている。警察の人にも聞いてみたいが、新薬を使う人には、アルツハイマー病という病名が付くことになるが、その中には症状も出ていない人が含まれることになる。そのような方の運転免許返納等の対応はどうなるか。
（吉田委員）
そのような対応については現状把握できていない。
（髙田会長）
認知症疾患医療センターとしては、新薬に関して活動されることがあるか。
（森江委員）
養和病院はどちらかと言えば後方支援にあたることになると思う。訪問にはある程度自由に対応できる。
（髙田会長）
田住委員はなにか意見があるか。
（田住委員）
認知症サポート店やチームオレンジの取り組みに関して、認知症に理解のある社会の見える化が進んでいけばいいと感じる。また事業の進捗を聞きたい。
今年度 RUNTOMO のイベントを実施する予定としているため、周知等にご協力いただきたい。

（髙田会長）

県でもホームページの作成等、いろいろな計画を考えているところだと思うが、そのあたりの動きは、中本オブザーバーから情報はあるか。

（中本オブザーバー）

県庁が主に取り組んでいるが、ホームページ等については市町村のリンクを載せる等の連携ができるのではないか。

（髙田会長）

県の取り組みと連動していければと考えている。県が新薬の補助事業をやっているが、市町村で手をあげている自治体は少ないということは聞いている。

織奥オブザーバーは、なにか意見があるか。

（織奥オブザーバー）

認知症に関して、歯科として何かできることがあるかを考えている。歯科は認知症から遠い存在になっていると思っているので、もっと近い存在になれるように工夫が必要だと感じた。